

# たまねぎ

## 1 作型

月	1			2			3			4			5			6		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作 型	春どり栽培																	

月	7			8			9			10			11			12		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作 型	春どり栽培																	

：播種      ：定植      ：収穫      ：貯蔵出荷

## アピールポイント

- ・出荷時期：5月下旬～12月下旬。
- ・収穫期間は短いですが、貯蔵性が高いので長期間の出荷が可能です。
- ・病害虫が少なく、低農薬栽培が可能です。
- ・甘みがあり生食に向く赤タマネギも生産されています。

## 2 各作型のポイント

一般的に平坦地では早生品種が、標高の高い地域では晩生品種を使用します。品種を組み合わせて栽培することにより、収穫作業の分散が図られます。

9月上旬に播種して、霜の降りるころに定植を行い、翌年の梅雨までには収穫を終えます。つり玉出荷により出荷調整が可能です。

苗の品質が収穫物の品質・収量に大きく影響します。定植する苗が大きすぎたり太すぎると、抽台や分球が発生しやすく、収量が減少します。播種から定植までの育苗期間は55～60日で、草丈25～30cm、本葉3～4枚、苗100本の重量が約400g、鉛筆の太さの苗が目安です。



定植後の生育を順調にするため、施肥は早めに行い十分に土と馴染ませておきます。鶏ふんを用いるとタネバエが発生しやすくなるので避けます。雑草防止と乾燥防止のため、黒マルチを張ります。

根が活動を始める2月中～下旬に追肥を行います。追肥による球の肥大効果は大きいですが、追肥が遅れると、貯蔵性が落ちるので注意が必要です。

茎葉がほ場全体の80%くらい倒伏したら収穫を行います。ほ場が湿っているときに収穫すると貯蔵中に腐敗球が発生しやすくなりますので、梅雨入り前に収穫を終えます。



